

# 成人鼠径ヘルニアの嵌頓に関連する因子の研究

## 1. 研究の対象

2012年1月から2019年4月に当院で鼠径ヘルニア修復術を受けた16歳以上の方

## 2. 研究目的・方法

### 【背景と目的】

成人鼠径ヘルニアは診断がつけば全例が手術対象となり得る疾患ですが、悪性の疾患ではないため、手術が必須となるわけではありません。鼠径ヘルニアを放置した場合にいちばん問題となるのは「嵌頓」を起こすことです。「嵌頓」とは、はみ出した腸がもとに戻らなくなった状態のことを言い、時間が経つと腸が腐ってしまうことがあるため緊急手術が必要です。とくに高齢の方が嵌頓を起こすと命に関わることもあります。ただし、鼠径ヘルニアの嵌頓を起こす年間確率は1%程度であり、無症状もしくは症状が軽い方については、注意深い経過観察でも良いと言われています。もし鼠径ヘルニア嵌頓を起こしやすい患者さんの特徴が判明すれば、それにあてはまる患者さんには症状が軽くても積極的に手術をお勧めすることで嵌頓を回避することが可能となります。本研究の目的は、当院で過去に鼠径ヘルニア手術を行った方の診療情報を検証し、鼠径ヘルニア嵌頓の危険因子を明らかにすることです。

研究の実施期間は、倫理委員会承認日～2020年7月です。

## 3. 研究に用いる試料・情報の種類

術前の全身状態、年齢、性別、BMI、併存疾患、手術既往、内服情報、鼠径ヘルニア分類、術前の症状など

## 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

済生会熊本病院 研究責任者：外科 辛島 龍一

熊本県熊本市南区近見 5-3-1

096-351-8000（病院代表）

以上